



## トランクの設定

ゲートキーパー（つまり、ホールセール ネットワークやゲートキーパーによって制御されるクラスター間トランク）への論理ルート、ゲートキーパーによって制御されないクラスター間トランクへの論理ルート、または SIP ネットワークへの論理ルートを設定するには、トランク デバイスを使用します。次の使用可能なトランク タイプからいずれかを選択してください。

- H.225 トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスター間トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスター間トランク（ゲートキーパー非制御）
- SIP トランク

Cisco CallManager トランクの設定については、次のトピックを参照してください。

- [トランクの検索 \(P.71-2\)](#)
- [トランクの設定 \(P.71-3\)](#)
- [トランクの設定値 \(P.71-5\)](#)
- [トランクの削除 \(P.71-28\)](#)
- [トランクのリセット \(P.71-29\)](#)

次のトピックには、トランクに関する追加情報が記載されています。

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「コール アドミッション制御」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager 内でのゲートキーパーとトランクの設定」
- *Cisco IP ビデオ テレフォニー ソリューション ネットワーク デザイン (SRND)*

## トランクの検索

ネットワーク内には複数のトランクが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定してトランクを検索することができます。Cisco CallManager データベース内で特定のトランクを検索する手順は、次のとおりです。



**(注)** Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、トランクの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランクの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Device > Trunk の順に選択します。

Find and List Trunks ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** トランクの特定に使用するフィールドを選択します。



**(注)** データベースに登録されているトランクをすべて検索するには、フィールドのリストから Device Name を選択し、パターンのリストから「is not empty」を選択します。次に、**Find** をクリックしてください。

**ステップ 3** テキスト検索に該当する検索パターンを選択します。テキスト検索を実行しない場合は、「is empty」を選択します。

**ステップ 4** Find フィールドに、検索テキスト（ある場合）を入力します。

**ステップ 5** ステップ 2 でコーリング サーチ スペースまたはデバイス プールを選択した場合は、データベース内で使用可能なオプションが表示されます。**Find** ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから、これらのオプションのいずれかを選択できます。

**ステップ 6** Find をクリックします。

基準と一致するデバイスのリストが表示されます。このウィンドウには、デバイスの合計数も表示されます。

**ステップ 7** 検出されたデバイスの次のセットを表示するには、**Next** をクリックします。



**(注)** トランクの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Trunks ウィンドウから複数のトランクを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のトランクをリセットできます。**Select All** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのトランクを選択できます。

### 追加情報

P.71-30 の「関連項目」を参照してください。

## トランクの設定

新規のトランク デバイスの追加または既存のトランク デバイスの更新を行う手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager クラスタ 1 つに複数のトランク デバイスを設定できます。

### 始める前に

SIP トランクを設定する前に、SIP トランク セキュリティ プロファイルおよび SIP プロファイルを設定します。詳細については、P.79-3 の「SIP プロファイルの設定」、第 21 章「SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定」、および『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** **Device > Trunk** の順に選択します。

Find and List Trunks ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。

- 新規のトランク デバイスを追加する場合は、**Add New** ボタンをクリックします。Trunk Configuration ウィンドウが表示されます。ステップ 3 に進みます。
- トランクの設定値を更新する場合は、適切なトランクを見つけます (P.71-2 の「トランクの検索」を参照)。更新するトランクの名前をクリックします。ステップ 6 に進みます。

**ステップ 3** Trunk Type ドロップダウン リストから、トランクのタイプを選択します。

**ステップ 4** 必要に応じて、Device Protocol ドロップダウン リストから、デバイス プロトコルを選択します。

**ステップ 5** **Next** をクリックします。

**ステップ 6** 表示されている Trunk Configuration ウィンドウで、ゲートキーパーによって制御された H.225 トランク、ゲートキーパーによって制御されたクラスタ間トランク、およびゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランクに対して適切な設定値を入力します (表 71-1 を参照)。SIP トランクの場合は、表 71-2 を参照して適切な設定値を入力します。

**ステップ 7** **Save** をクリックして、新規トランクを追加します。

トランクがデータベースに追加されます。

既存のトランクを更新している場合は、**Reset Trunk** をクリックしてトランクをリセットまたは再起動し、新しい設定値を適用します。



**(注)** トランクをリセットすると、そのトランクを使用している進行中のコールがすべて終了されます。ゲートウェイを再起動すると、そのゲートウェイを使用している進行中のコールを保持しようとします。それ以外のデバイスでは、コールが完了するまで待機してから、再起動またはリセットされます。H.323 または SIP デバイスの再起動やリセットは、ハードウェアを物理的に再起動またはリセットするのではなく、Cisco CallManager によってロードされた設定を初期化するだけです。

#### 追加情報

P.71-30 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## トランクの設定値

表 71-1 では、ゲートキーパーによって制御された H.225 トランク、ゲートキーパーによって制御されたクラスタ間トランク、およびゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランクの各設定値について説明します。

表 71-2 では、SIP トランクの設定値について説明します。

関連手順の詳細については、P.71-30 の「関連項目」を参照してください。

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値


フィールド	説明
デバイス情報	
Device Name	このトランクに固有の識別子を入力します。
Description	トランクの記述名を入力します。
Device Pool	<p>トランク用に適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>トランク用のデバイス プールは、トランクがコールの負荷を動的に分散するために使用する Cisco CallManager のリストを指定します。</p> <p> (注) トランクのデバイス プールに属さない Cisco CallManager に登録された電話機からのコールは、さまざまな発信コールに対してこのデバイス プールのさまざまな Cisco CallManager を使用します。ノードの選択は、順不同で行われます。</p> <p>トランクのデバイス プールに属している Cisco CallManager に登録された電話機からのコールは、その Cisco CallManager が起動し動作していれば、発信コールに対して同じ Cisco CallManager ノードを使用します。</p>
Call Classification	<p>このトランクを経由する着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。</p> <p>Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、トランクが OnNet または OffNet かどうか決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。警告トーンは、Cisco CallManager Annunciator によって提供されます。</p> <p>発信コールを OnNet または OffNet として認識するには、このパラメータと Route Pattern Configuration ウィンドウでの設定を併用します。</p>
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
Location	トランクに適したロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションと中央ロケーション (つまり、ハブ) との間のコールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを Hub_None に設定すると、無制限に使用可能な帯域幅を指定することになります。

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
Tunneled Protocol	このドロップダウンリスト ボックスは、H.225 トランク、ゲートキーパー制御のトランク、およびゲートキーパー非制御のトランクに対して表示されます。  トランクを使用して、H.323 シグナリング メッセージ内の H.323 以外のプロトコル情報を Cisco CallManager から他の Aneex M.1 準拠の H.323 PINX にトランスポート (トンネル) する場合は、 <b>QSIG</b> オプションを選択します。QSIG トンネルは、Call Completion、Call Diversion、Call Transfer、Identification Services、および Message Waiting Indication という機能をサポートします。
Packet Capture Mode	暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。  ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>None</b> : このオプション (デフォルト設定) は、パケット キャプチャリングが行われないことを示します。パケット キャプチャリングの完了後、この設定値を設定します。</li> <li>• <b>Batch Processing Mode</b> : Cisco CallManager が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号化鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco CallManager はファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。Cisco CallManager は /var/pktCap にファイルを保存します。単一のファイルには、タイムスタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケットプロトコル、メッセージ長、およびメッセージが含まれます。IREC ツールは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化されたファイルを復号化します。</li> </ul> <p> (注) パケット キャプチャリングを使用可能または使用不可にした後で、トランクをリセットする必要はありません。</p> <p> <b>ヒント</b> パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Packet Capture Duration	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 です。ただし、0 ~ 300 分の範囲で指定できます。</p> <p>パケット キャプチャリングを開始するには、このフィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャリングの完了後、0 が表示されます。</p> <p> <b>ヒント</b> パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
Media Termination Point Required	<p>このチェックボックスでは、H.323 がサポートしない機能（たとえば、保留や転送）を実装するために、Media Termination Point (MTP; メディアターミネーションポイント) を使用するかどうかを指定します。</p> <p>機能をインプリメントするためにメディア ターミネーションポイントを使用する場合は、Media Termination Point Required チェックボックスをオンにします。機能をインプリメントするためにメディア ターミネーションポイントを使用しない場合は、Media Termination Point Required チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 デバイスにのみ使用してください。または、メディア ストリーミングを 1 つのソースで終了させる場合に使用してください。</p> <p>MTP を使用するためにこのチェックボックスをオンにして、発信側と着信側のどちらか一方または両方がビデオ エンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオとして動作します。</p>
Retry Video Call as Audio	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントのみに適用されます。トランクの場合、このチェックボックスは Cisco CallManager から受信されたコールには適用されますが、Wide Area Network (WAN; ワイドエリア ネットワーク) から受信されたコールには適用されません。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして（ビデオ コールとして接続できない場合）そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は Automatic Alternate Routing (AAR) およびルート / ハント リスト経由でコールをルーティングします。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
Wait for Far-End H.245 Terminal Capability Set (H.225 トランクのみ)	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。</p> <p>このチェックボックスでは、Cisco CallManager が遠端 H.245 Terminal Capability Set を受信した後に、その H.245 Terminal Capability Set を送信するように指定します。このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco CallManager がケイパビリティ交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p>
Path Replacement Support	<p>このチェックボックスは、Tunneled Protocol ドロップダウンリストボックスから QSIG オプションを選択した場合に、H.225 トランク、ゲートキーパー制御のトランク、およびゲートキーパー非制御のトランクに対して表示されます。この設定は QSIG トンネル (Annex M.1) と連動し、パス変換を使用するコールに H.323 以外の情報を確実に送信します。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。QSIG Tunneled Protocol オプションを選択した場合、このチェックボックスは自動的にオンになります。</p>
Transmit UTF-8 for Calling Party Name	<p>このデバイスは、SIP トランクのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスのデバイスプールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、送信側デバイスのデバイスプールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、電話機に文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
Unattended Port	<p>コールを不在ポート (ボイスメール ポートなど) にリダイレクト、任意転送、および自動転送できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>



表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
SRTP Allowed	<p>Cisco CallManager がトランク上のセキュアなコールもノンセキュアなコールも許可するようにする場合は、SRTP Allowed チェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしない場合、Cisco CallManager はトランクとの SRTP ネゴシエーションを行わず、RTP を使用します。</p> <p> <b>注意</b> このチェックボックスをオンにする場合は、IP セキュリティを設定して、コール ネゴシエーション中に鍵や他のセキュリティ関連の情報を公開しないようにすることを強くお勧めします。IP セキュリティを正しく設定しないと、Cisco CallManager とゲートウェイの間のシグナリングがノンセキュアになります。</p> <p>トランクの暗号化の詳細については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
<b>Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報</b>	
MLPP Domain	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。このフィールドをブランクのままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズパラメータに設定された値から継承されます。</p>
MLPP Indication	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Default : このデバイスは、デバイス プールから MLPP Indication 設定を引き継ぎます。</li> <li>• Off: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。</li> <li>• On : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。</li> </ul> <p> <b>(注)</b> MLPP Indication を Off または Default (デフォルトが Off の場合) に設定し、かつ、MLPP Preemption を Forceful に設定するという組み合わせで、デバイスを設定することはできません。</p>
<b>コール ルーティング情報</b>	
<b>着信コール</b>	
Significant Digits	<p>有効数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。H.323 デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。</p> <p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32)。Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラス間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なトランクのコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、<b>System &gt; Enterprise Parameters</b> の順に選択し、<b>CCMAdmin Parameters</b> を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
Prefix DN	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Significant Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
Redirecting Diversion Header Delivery - Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージ システムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。Tunneled Protocol ドロップダウン リスト ボックスで QSIG オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Enable Inbound FastStart	<p>着信コールで H.323 FastStart コール接続を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイ用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>クラスタ間コールの場合、他のクラスタの Cisco CallManager サーバで Enable Inbound FastStart チェックボックスをオンにして、外部 FastStart を機能させる必要があります。</p> <p>他のクラスタの Cisco CallManager 3.3(2) サーバをサポート パッチ B で更新した場合、3.3(2)spB が内部 FastStart 機能をクラスタ間トランクでサポートしないため、内部 FastStart を使用可能にしないでください。</p>
<b>発信コール</b>	
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイ上の発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number (External): リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number (External): コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> </ul>
Calling Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は、着信側の番号表示画面での発信側番号の表示を制御するために、補足サービスとして Calling Line ID Presentation (CLIP) を使用します。</p> <p>CLIP の設定を変更しない場合は、Default を選択します。発信側番号情報を表示する場合は、Allowed を選択します。発信側番号情報を表示しない場合は、Restricted を選択します。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called Party IE Number Type Unknown	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。</li> <li>• National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。</li> </ul>
Calling Party IE Number Type Unknown	<p>発信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。</li> <li>• National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。</li> </ul>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called Numbering Plan	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側番号計画が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号の Numbering Plan を設定します。</li> <li>• ISDN : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• National Standard : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Private : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。</li> </ul>
Calling Numbering Plan	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、発信側番号計画が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号の Numbering Plan を設定します。</li> <li>• ISDN : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• National Standard : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Private : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。</li> </ul>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
Caller ID DN	<p>トランクからの発信コールで、発信者 ID をフォーマットするのに使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、セントラル オフィス (CO) は、エリア コードと共にこの番号を追加します。</li> <li>5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリア コードと共にこの番号を追加します。</li> </ul>
Display IE Delivery	<p>発信側と着信側のネーム デリバリ サービスに対する SETUP および CONNECT メッセージ内で、表示 Information Element (IE; 情報要素) のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。Tunneled Protocol ドロップダウン リスト ボックスで QSIG オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>
Redirecting Diversion Header Delivery - Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の転送番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number IE を送信 SETUP メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージ システムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。Tunneled Protocol ドロップダウン リスト ボックスで QSIG オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>
Enable Outbound FastStart	<p>発信コールで H.323 FastStart 機能を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイまたはトランク用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>Enable Outbound FastStart チェックボックスがオンの場合、Media Termination Point Required、Media Resource Group List、および Codec for Outbound FastStart を設定する必要があります。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Codec For Outbound FastStart	<p>発信 FastStart コール用に H.323 デバイスと共に使用するため、次のいずれかのコーデックを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• G711 mu-law 64K (デフォルト)</li> <li>• G711 a-law 64K</li> <li>• G723</li> <li>• G729</li> <li>• G729AnnexA</li> <li>• G729AnnexB</li> <li>• G729AnnexA-AnnexB</li> </ul> <p>Enable Outbound FastStart チェックボックスがオンの場合、発信 FastStart コールをサポートしているコーデックを選択する必要があります。</p>
<p>ゲートキーパー情報 (ゲートキーパーによって制御された H.225 トランクまたはクラスタ間トランク)</p>	
Gatekeeper Name	このトランクを制御するゲートキーパーを選択します。
Terminal Type	<p>このトランクが制御するデバイスすべてのタイプを指定します。</p> <p>通常のトランク コール アドミッション制御には、このフィールドに常に Gateway を設定します。</p>
Technology Prefix	<p>ゲートキーパーで <b>gw-type-prefix</b> を設定するときに、各 Cisco CallManager の IP アドレスを入力するをなくすために使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• このフィールドをブランクのままにする (デフォルト値) 場合は、ゲートキーパーで <b>gw-type-prefix</b> コマンドを入力するときに、ゲートキーパーに登録できる各 Cisco CallManager の IP アドレスを指定する必要があります。</li> <li>• このフィールドを使用する場合は、ここで入力した値が、ゲートキーパーの <b>gw-type-prefix</b> コマンドで指定した <i>type-prefix</i> 値と正確に一致することを確認します。</li> </ul> <p>たとえば、このフィールドをブランクのままにした場合、IP アドレス 10.1.1.2 と 11.1.1.3 を持つ 2 つの Cisco CallManager があるときは、ゲートキーパーで次の <b>gw-type-prefix</b> コマンドを入力します。</p> <p><b>gw-type-prefix 1#* default-technology gw ip 10.1.1.2 gw ip 11.1.1.3</b></p> <p>このフィールドに <b>1#*</b> を入力した場合、ゲートキーパーで次の <b>gw-type-prefix</b> コマンドを入力します。</p> <p><b>gw-type-prefix 1#* default-technology</b></p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
Zone	<p>Cisco CallManager が登録されるゲートキーパーに関して特定ゾーンを要求するには、このオプションフィールドを使用します。Zone は、このゾーンと別のゾーンとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このフィールドに値を入力しない場合は、ゲートキーパー上の <b>zone subnet</b> コマンドによって、Cisco CallManager が登録されるゾーンが決まります。大部分の設定では、デフォルト値をお勧めします。</li> <li>ゲートキーパー上の特定のゾーンに Cisco CallManager を登録する場合は、<b>zone</b> コマンドを使用してゲートキーパー上で設定されたゾーン名と正確に一致する値を入力します。このフィールドにゾーン名を指定すると、ゲートキーパーに登録される各 Cisco CallManager に対して、<b>zone subnet</b> コマンドを入力する必要がなくなります。</li> </ul> <p>詳細については、使用しているゲートキーパーのコマンドリファレンスマニュアルを参照してください。</p>
<p><b>リモート Cisco CallManager 情報</b> (ゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランク)</p>	
Server 1 IP Address/Host Name	<p>このトランクがアクセスする最初のリモート Cisco CallManager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。</p>
Server 2 IP Address/Host Name	<p>このトランクがアクセスする 2 番目のリモート Cisco CallManager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。</p> <p> (注) ゲートキーパーによって制御されないこのクラスタ間トランクが、ゲートキーパーによって制御されないリモートクラスタ間トランクのデバイスプールにアクセスし、そのデバイスプールに 2 番目の Cisco CallManager ノードがある場合は、このフィールドに 2 番目のリモート Cisco CallManager の IP アドレスとホスト名を入力する必要があります。</p>
Server 3 IP Address/Host Name	<p>このトランクがアクセスする 3 番目のリモート Cisco CallManager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。</p> <p> (注) ゲートキーパーによって制御されないこのクラスタ間トランクが、ゲートキーパーによって制御されないリモートクラスタ間トランクのデバイスプールにアクセスし、そのデバイスプールに 3 番目の Cisco CallManager ノードがある場合は、このフィールドに 3 番目のリモート Cisco CallManager の IP アドレスとホスト名を入力する必要があります。</p>



表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)




フィールド	説明
MLPP Indication	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイスは、その MLPP Indication 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。</li> <li>• <b>Off</b> : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。</li> <li>• <b>On</b> : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。</li> </ul> <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
MLPP Preemption (H.323 ICT では使用不可)	<p>進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイスは、その MLPP Preemption 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。</li> <li>• <b>Disabled</b> : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。</li> <li>• <b>Forceful</b> : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。</li> </ul> <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p> <p> (注) MLPP Preemption フラグは現在 Trunk ページで使用できません。優先順位のロジックは、ロケーションベースの MLPP Preemption フラグによって制御されます。</p>

表 71-2 では、SIP トランクの設定値について説明します。

表 71-2 SIP トランクの設定値

フィールド	説明
デバイス情報	
Device Name	このトランクに固有の識別子を入力します。
Description	トランクの記述名を入力します。
Device Pool	<p>トランク用に適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>トランク用のデバイス プールは、トランクがコールの負荷を動的に分散するために使用する Cisco CallManager のリストを指定します。</p> <p> (注) トランクのデバイス プールに属さない Cisco CallManager に登録された電話機からのコールは、さまざまな発信コールに対してこのデバイス プールのさまざまな Cisco CallManager を使用します。Cisco CallManager ノードの選択は、順不同で行われます。</p> <p>トランクのデバイス プールに属している Cisco CallManager に登録された電話機からのコールは、その Cisco CallManager が起動し動作していれば、発信コールに対して同じ Cisco CallManager ノードを使用します。</p> <p>Device Pool のデフォルト値は Not Selected です。</p>
Call Classification	<p>このトランクを経由する着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。</p> <p>Call Classification のデフォルト値は Use System Default です。Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、トランクが OnNet または OffNet かどうか決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p> <p>発信コールを OnNet または OffNet として認識するには、このパラメータと Route Pattern Configuration ウィンドウでの設定を併用します。</p>
Media Resource Group List	<p>メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。</p> <p>Media Resource Group List のデフォルト値は None です。</p>
Location	<p>トランクに適したロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションと中央ロケーション (つまり、ハブ) との間のコールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを Hub_None に設定すると、無制限に使用可能な帯域幅を指定することになります。</p> <p>ロケーションは、他のロケーションに関する RSVP ポリシーとも関連付けられます。この設定により、ロケーション ペアに基づいて RSVP を使用可能にしたり使用不可にしたりすることができます。</p> <p>Location のデフォルト値は Hub_None です。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p> <p>AAR Group のデフォルト値は None です。</p>
Packet Capture Mode	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>None</b> : このオプション (デフォルト設定) は、パケット キャプチャリングが行われないことを示します。パケット キャプチャリングの完了後、この設定値を設定します。</li> <li>• <b>Batch Processing Mode</b> : Cisco CallManager が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号化鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco CallManager はファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。Cisco CallManager は /var/pktCap にファイルを保存します。単一のファイルには、タイムスタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケット プロトコル、メッセージ長、およびメッセージが含まれます。TAC デバッグ ツールは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化されたファイルを復号化します。</li> </ul> <p>TAC に連絡する前に、該当するデバイス間で sniffer トレースを使用して、SRTP パケットをキャプチャする必要があります。</p> <p></p> <p><b>ヒント</b> パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
Packet Capture Duration	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 です。ただし、0 ~ 300 分の範囲で指定できます。</p> <p>パケット キャプチャリングを開始するには、このフィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャリングの完了後、0 が表示されます。</p> <p></p> <p><b>ヒント</b> パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)


フィールド	説明
Media Termination Point Required	<p>常に MTP を使用するように Cisco CallManager SIP トランクを設定できます。発信 INVITE 要求でメディア チャネル情報を提供するには、このボックスをオンにします。このボックスをオンにすると、すべてのメディア チャネルが MTP デバイス上で終了して再開するよう要求されます。このチェックボックスをオフにすると、コールが MTP デバイスを通過するか、エンドポイント間で直接接続されるかを、Cisco CallManager が決定できます。</p> <p> (注) オフ (デフォルト) である場合、コール レッグの DTMF 方式に互換性がないと、Cisco CallManager は MTP を動的に割り当てようとします。</p> <p>たとえば、既存の SCCP 電話機がアウトオブバンド DTMF だけをサポートしており、既存の SIP 電話機が RFC2833 をサポートしているとします。DTMF 方式が同じでないため、Cisco CallManager は MTP を動的に割り当てます。ただし、RFC2833 とアウトオブバンドをサポートする新しい SCCP 電話機が既存の SIP 電話機をコールする場合は、両方の電話機が RFC2833 をサポートしているため、Cisco CallManager は MTP を割り当てません。したがって、各電話機で同じタイプの DTMF 方式がサポートされるようにすることにより、MTP は不要になります。</p>
Retry Video Call as Audio	<p>このチェックボックスは、発信 SIP トランク コールに適用されますが、着信コールには影響を及ぼしません。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は Automatic Alternate Routing (AAR) およびルート/ハント リスト経由でコールをルーティングします。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
Transmit UTF-8 for Calling Party Name	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、送信側デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、電話機に文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p> <p>Transmit UTF-8 for Calling Party Name チェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>
Unattended Port	<p>コールを不在ポート (ボイスメール ポートなど) にリダイレクトおよび転送できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>
<b>Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報</b>	
MLPP Domain	<p>ドロップダウン リストから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。このフィールドをブランクのままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p> <p>MLPP Domain のデフォルト値は None です。</p>
<b>コール ルーティング情報</b>	
<b>着信コール</b>	
Significant Digits	<p>有効数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。SIP デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。</p> <p>収集する有効数字の桁数 (0 ~ 32) を選択するか、または All を選択します。</p> <p> (注) Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。</p> <p>Significant Digits のデフォルト値は All です。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)


フィールド	説明
Connected Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は、接続された側の番号を発信側に提供するために、補足サービスとして Connected Line ID Presentation (COLP) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、call-by-call 設定に優先します。</p> <p>Connected Line ID Presentation のデフォルト値は Default で、これは Allowed に変換されます。接続された回線の情報を Cisco CallManager が送信するようにする場合は、Default を選択します。</p> <p>接続された回線の情報を Cisco CallManager が送信しないようにする場合は、Restricted を選択します。</p>
Connected Name Presentation	<p>Cisco CallManager は、接続された側の名前を発信側に提供するために、補足サービスとして Connected Name ID Presentation (CONP) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、call-by-call 設定に優先します。</p> <p>Connected Name Presentation のデフォルト値は Default で、これは Allowed に変換されます。接続された名前を Cisco CallManager が送信するようにする場合は、Default を選択します。</p> <p>接続された名前を Cisco CallManager が送信しないようにする場合は、Restricted を選択します。</p>
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なトランクのコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、収集された(発信)番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで設定された数よりもコーリングサーチスペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリングサーチスペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリングサーチスペースのリストで、希望するコーリングサーチスペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、<b>System &gt; Enterprise Parameters</b> の順に選択し、<b>CCMAdmin Parameters</b> を選択します。</p> <p>Calling Search Space のデフォルト値は None です。</p>
AAR Calling Search Space	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された(発信)番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p> <p>AAR Calling Search Space のデフォルト値は None です。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Prefix DN	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Significant Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
Redirecting Diversion Header Delivery - Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 INVITE メッセージの Redirecting Number を受理するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 INVITE メッセージの Redirecting Number を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>Redirecting Number IE Deliver - Inbound のデフォルト値はオフです。</p>
<b>発信コール</b>	
Calling Party Selection	<p>発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number (External) : リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number (External) : コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> </ul> <p>Calling Party Selection のデフォルト値は Originator です。</p>
Calling Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は、発信側の番号を提供するために、補足サービスとして Calling Line ID Presentation (CLIP) を使用します。SIP トランクレベルの設定は、call-by-call 設定に優先します。</p> <p>Calling Line ID Presentation のデフォルト値は Default で、これは Allowed に変換されます。発信側番号情報を Cisco CallManager が送信するようにする場合は、Default を選択します。</p> <p>発信側番号情報を Cisco CallManager が送信しないようにする場合は、Restricted を選択します。</p>
Calling Name Presentation	<p>Cisco CallManager は、発信側の名前を提供するために、補足サービスとして Calling Name ID Presentation (CNIP) を使用します。SIP トランクレベルの設定は、call-by-call 設定に優先します。</p> <p>発信側名前情報を Cisco CallManager が送信するようにする場合は、Allowed を選択します。Allowed がデフォルトです。</p> <p>発信側名前情報を Cisco CallManager が送信しないようにする場合は、Restricted を選択します。</p> <p>Calling Name Presentation のデフォルト値は Default です。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)


フィールド	説明
Caller ID DN	<p>トランクからの発信コールで、発信者 ID をフォーマットするのに使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、セントラル オフィス (CO) は、エリア コードと共にこの番号を追加します。</li> <li>5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリア コードと共にこの番号を追加します。</li> </ul>
Caller Name	<p>発信元の SIP デバイスから受信した発信者名を上書きするには、このボックスをオンにします。</p>
Redirecting Diversion Header Delivery - Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の着信側番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number を送信 INVITE メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 INVITE メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number を使用します。ボイスメッセージ システムが Redirecting Number をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>Redirecting Number IE Delivery - Outbound のデフォルト値はオフです。</p>
<b>SIP 情報</b>	
Destination Address	<p>このフィールドには、リモート SIP デバイスの IP アドレス、Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名)、または Domain Name System Server (DNS SRV; ドメイン ネーム システム サーバ) アドレスを指定します。また、このフィールドによって着信コールがルーティングされます。</p> <p></p> <p><b>(注)</b> SIP トランクは、Destination Address フィールドに指定されているホストからの着信メッセージ、およびそのトランクが使用したセキュリティ プロファイルに指定されている着信ポートからの着信メッセージだけを受け入れます。Destination Address フィールドのホスト値には、IP アドレス、DNS SRV、または FQDN エントリを指定できます。</p> <p>リモートエンドが Cisco CallManager クラスタである場合、このフィールドには DNS SRV を指定することをお勧めします。DNS SRV レコードには、クラスタ内のすべての Cisco CallManager が含まれている必要があります。</p>
Destination Address is an SRV	<p>宛先アドレスに DNS SRV アドレスを指定する場合に、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Destination Address is an SRV のデフォルト値はオフです。</p>



表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
Destination Port	<p>宛先ポートを選択します。このフィールドには、必ず 1024 ~ 65535 の範囲でポートを指定してください。</p> <p> (注) 複数のトランクに同じポート番号を指定できるようになりました。</p> <p>宛先アドレスが DNS SRV ポートの場合、値を入力する必要はありません。デフォルトの 5060 は SIP ポートを示します。</p> <p>Destination Port のデフォルト値は 5060 です。</p>
MTP Preferred Originating Codec	<p>任意の発信コーデックを指定します。</p> <p>このフィールドは、MTP Termination Point Required チェックボックスがオンの場合にだけ使用されます。</p>
Presence Group	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP トランク用のプレゼンス グループを選択します。選択したグループにより、SIP トランクに接続されているデバイス、アプリケーション、またはサーバが監視できる対象が指定されます。</p> <p>Presence Group のデフォルト値は、インストール時に設定された Standard プレゼンス グループです。Cisco CallManager Administration で設定されたプレゼンス グループもドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間で権限を設定する方法については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p> <p> <b>ヒント</b> プレゼンス グループは、SIP トランクに適用することも、SIP トランクに接続されているアプリケーションに適用することもできます。プレゼンス グループが SIP トランクと SIP トランク アプリケーションの両方に設定されている場合、アプリケーションに適用されているプレゼンス グループが、トランクに適用されているプレゼンス グループを上書きします。</p>
SIP Trunk Security Profile	<p>この必須エントリに対して、ドロップダウン リスト ボックスから、SIP トランクに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。セキュリティ プロファイルを設定する方法については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p> <p>SIP Trunk Security Profile のデフォルト値は Not Selected です。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
Rerouting Calling Search Space	<p>コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索できるパーティションが決まります。再ルーティング コーリング サーチ スペースは、SIP ユーザ (A) が別のユーザ (B) をサードパーティ (C) に転送するときの対象場所を決める場合に使用されます。転送の完了後、B と C が接続されます。この場合、使用される再ルーティング コーリング サーチ スペースは、最初の SIP ユーザ (A) のものです。</p> <p> (注) コーリング サーチ スペースは、3xx リダイレクション機能および INVITE with Replaces 機能にも適用されます。</p> <p>Rerouting Calling Search Space のデフォルト値は None です。</p>
Out-of-Dialog Refer Calling Search Space	<p>コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索できるパーティションが決まります。out-of-dialog コーリング サーチ スペースは、SIP ユーザ (A) の介入がない場合に Cisco CallManager が SIP ユーザ (A) に着信するコール (B) をサードパーティ (C) に転送するときに使用されます。この場合、システムが使用する out-of-dialog コーリング サーチ スペースは、SIP ユーザ (A) のものです。</p> <p>Out-of-Dialog Refer Calling Search Space のデフォルト値は None です。</p>
SUBSCRIBE Calling Search Space	<p>プレゼンス機能でサポートされている SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースによって、Cisco CallManager が、SIP トランクに接続するデバイス、サーバ、またはアプリケーションからのプレゼンス要求をルーティングする方法が決まります。この設定により、SIP トランクのプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に対して、コール処理サーチ スペースとは別のコーリング サーチ スペースを適用できます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP トランクのプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを選択します。Cisco CallManager Administration で設定したすべてのコーリング サーチ スペースが、SUBSCRIBE Calling Search Space ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>ドロップダウン リストから、SIP トランク用に別のコーリング サーチ スペースを選択しない場合、SUBSCRIBE Calling Search Space はデフォルトで None になります。</p> <p>特にこの目的のために SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを設定するには、すべてのコーリング サーチ スペースを設定するときと同様に、コーリング サーチ スペースを設定します。コーリング サーチ スペースを設定する方法については、P.43-1 の「<a href="#">コーリング サーチ スペースの設定</a>」を参照してください。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
SIP Profile	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この SIP トランクに使用する SIP プロファイルを選択します。</p> <p>SIP Profile のデフォルト値は None Selected です。</p>
DTMF Signaling Method	<p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>No Preference (デフォルト) : Cisco CallManager が DTMF 方式を選択して DTMF をネゴシエートします。したがって、コールに MTP は不要です。Cisco CallManager が MTP を割り当てる必要がある場合 (Media Termination Point Required チェックボックスがオンである場合)、SIP トランクは DTMF として RFC2833 をネゴシエートします。</p> <p>RFC 2833 : トランクで使用される優先 DTMF 方式を RFC2833 にする場合は、この設定を選択します。Cisco CallManager は、MTP を使用するかどうかに関わらず、できる限り RFC2833 をネゴシエートしようとします。アウトオブバンドは、ピア エンドポイントがアウトオブバンドをサポートしている場合のフォールバック方式を提供します。</p> <p>OOB and RFC 2833 : DTMF にアウトオブバンドと RFC2833 の両方を使用する必要がある場合は、この設定を選択します。</p> <p> (注) ピア エンドポイントがアウトオブバンドと RFC2833 の両方をサポートしている場合、Cisco CallManager はアウトオブバンドと RFC2833 の両方の DTMF 方式をネゴシエートします。その結果、同一の DTMF キーを押した場合に 2 つの DTMF イベントが送信されます (1 つはアウトオブバンド、もう 1 つは RFC2833)。</p>

## 追加情報

P.71-30 の「関連項目」を参照してください。

## トランクの削除

トランクを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

1 つまたは複数のルート パターンに割り当てられているトランクは、削除できません。トランクを使用しているルート パターンを検索するには、Trunk Configuration ウィンドウで Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。

Dependency Records がシステムで使用可能でない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。使用されているトランクを削除しようとする、Cisco CallManager はメッセージを表示します。現在使用されているトランクを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するトランクを使用しているルート パターンすべてに、別のトランクを割り当てる。[P.35-4 の「ルート パターンの設定」](#)を参照してください。
- 削除するトランクを使用しているルート パターンを削除する。[P.35-13 の「ルート パターンの削除」](#)を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** **Device > Trunk** の順に選択します。

Find and List Trunks ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 検索条件を入力し、**Find** をクリックして、特定のトランクを見つけます。

検索条件と一致するトランクのリストが表示されます。

**ステップ 3** 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除するトランクの横にあるチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックする。
- **Select All** をクリックしてから **Delete Selected** をクリックし、ウィンドウ内のすべてのトランクを削除する。
- 削除するトランクの名前をリストから選択して、現在の設定値を表示し、**Delete** をクリックする。

確認ダイアログが表示されます。

**ステップ 4** **OK** をクリックして、トランクを削除します。

---

### 追加情報

[P.71-30 の「関連項目」](#)を参照してください。

## トランクのリセット

トランクをリセットする手順は、次のとおりです。



### 注意

デバイスをリセットすると、そのデバイスのコールが欠落することがあります。

### 手順

**ステップ 1** **Device > Trunk** の順に選択します。

Find and List Trunks ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 検索条件を入力し、**Find** をクリックして、特定のトランクを見つけます。

検索条件と一致するトランクのリストが表示されます。

**ステップ 3** リストから、リセットするトランクの名前をクリックします。

Trunk Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** トランク デバイスの設定値を変更した後に、**Reset Trunk** をクリックします。

Device Reset ダイアログが表示されます。

**ステップ 5** 次のいずれかの項目をクリックします。

- **Restart** : トランク デバイスをシャットダウンしないで再起動する。
- **Reset** : 内部トランク デバイスをシャットダウンしてから再起動する。トランクがゲートキーパーによって制御されている場合、Cisco CallManager クラスタは、トランクへの登録を解除 (URQ) した後、再登録 (RRQ) します。
- **Close** : 何も実行しないで、Reset Device ダイアログを閉じる。



### (注)

SIP トランクの場合、Restart と Reset は同様に動作し、どちらをクリックしてもすべてのアクティブ コールが接続解除されます。パケット キャプチャを使用可能または使用不可にする場合は、トランクに対して Restart も Reset も実行する必要はありません。

### 追加情報

P.71-30 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [トランクの検索 \(P.71-2\)](#)
- [トランクの設定 \(P.71-3\)](#)
- [トランクの設定値 \(P.71-5\)](#)
- [トランクの削除 \(P.71-28\)](#)
- [トランクのリセット \(P.71-29\)](#)
- [SIP プロファイルの設定 \(P.79-3\)](#)
- [SIP トランクのセキュリティプロファイルの設定](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「コール アドミッション制御」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager 内でのゲートキーパーとトランクの設定」
- *Cisco CallManager セキュリティ ガイド*
- *Cisco IP テレフォニー ソリューション リファレンス ネットワーク デザイン (SRND)*